東京都知事賞

「税金という名の『期待』を力に」

足立区立　第七中学校

三年　川合　美嘉

私はこれまで塾に通ったことがなかった。母子家庭ということもあり、毎月高額な月謝がかかる塾は、経済的に遠慮してしまう所があったからだ。中学二年生の終わり頃、「いよいよ来年は受験生だ」という中で、私は強い不安を抱えていた。塾に通わずに一人できちんとした受験勉強ができるのだろうか。周りの友達が次々と塾に通い始めるにつれ、私の不安はますます大きくなっていった。塾に行きたいけれど、親に負担をかけたくない気持ち。そんな葛藤の狭間で、私はどうするべきなのか分からなくなっていた。

そんな時、学校で一枚のプリントが配られた。それは、「区が運営する塾」の案内だった。授業料もテキスト代も無料だと書いてあり、不安で暗くなっていた目の前がパッと明るくなるような気がした。これなら親に負担をかけずに、受験に向き合える。私はすぐにこの塾へ行くことを決意した。

実際にその塾に通い始めると、先生方の指導はとても熱心で、配られたテキストはどれも本格的なものばかりだった。毎週のように充実した環境で勉強を進める中、私はふと疑問に思った。「なぜ、これほど質の高い教育を無料で受けられるのだろう？」その答えが区の「税金」だと知った時、私はとても驚いた。調べてみると、この塾は私のように経済的な理由で塾を諦めていた子ども

たちが、家庭の環境に関係なく、平等に受験に挑戦できるようにするために税金を使って運営されているのだという。それまでの私は、ニュースで「税金が高い」とこぼす大人の姿ばかりが印象に残っており、税金にマイナスなイメージを持っていた。しかし、会ったこともない区民のみなさんが納めてくれた税金が、今まさに私の学びと未来を支えてくれている。週に一度の塾で感じる教室の熱気も、手元にある分厚いテキストも、すべて社会の大人たちが「頑張れ」と用意してくれたものなのだ。そう実感した時、感謝の気持ちで胸が熱くなった。

　これからは、私を支えてくれている税金を、ただの「お金」だけではなく、社会からの「期待」として受け止めたい。不安でいっぱいだった私の未来を、税金がこうしてつないでくれたのだ。その期待に全力で応えるために、日々の勉強に精一杯励みたいと思う。いつか大人になったとき、今度は自分がしっかりと働き、税金を納める番だ。そうして次の世代の子どもたちを支えることで、私がもらった温かい期待を未来へとつないでいきたい。顔も知らない誰かの優しさで拓かれたこの道を、今度は私が誰かのために切り拓く。そのために、私は今日も税金という名の「期待」を力に変えて、一歩ずつ前を向いて進んでいく。